

子ども用



# 伝道地便り

2022年 第2期 南アフリカ・インド洋支部

第1話 「教会に行きましょう！」	ザンビア
第2話 「お母さんは眠っている」	ナミビア
第3話 「締め出し」	モザンビーク
第4話 「忠実な祖父母」	南アフリカ
第5話 「ゴミのお返しにパンをどうぞ」	アンゴラ
第6話 「イエス様を見る」	アンゴラ

ADVENTIST  
MISSION

セブンスデー・アドベンチスト教団 伝道局 安息日学校部



## 伝道地便りの使い方のヒント

伝道地便りに収められているのは、現地からの一人ひとりの生きた経験です。安息日学校でこれを用いるときには、生き生きとご紹介していただきたいのです。そのためのヒントを、いくつか挙げていきます。

- 1) 前もって何度か目を通し、自信を持って読む。
- 2) 棒読みは避け、証されている大事な部分を明確にしておく。
- 3) 伝える時間はできるだけ短く。長くても5～7分。
- 4) 誰が、いつ、どこで、何を、なぜ、どうしたかが分かるようにする。
- 5) できたらカードに文字や絵を書くなどの視聴覚的工夫を。
- 6) 時には、スキット(寸劇)風にしてくださっても良いですね。

伝道地便りは、私たちが自分の証をするときの練習になります。主の愛の証のために、「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして」紹介しましょう。

# 1. 教会に行きましょう！

ザンビア



エレミヤ

ザンビアでおじさんが結婚した時、不思議なことが起こりました。

おじさんと暮らしていたエレミヤは、土曜日の朝、目を覚まして、今日はのんびり過ごし、友だちと遊ぼうかなーなどと考えていました。ところが彼が家から出かけないうちに、新しいおばさんが言ったのです。

「教会に行きましょう！」

エレミヤはおばさんが冗談を言っているのだと思いました。こんな気持ちの良い日に誰が教会の中に座っていたいでしょう？ 彼はまるまる1週間、おじさんを手伝って食器棚や台所の棚作りをして働いてきたのです。エレミヤはたった12歳でしたが毎日働いているのです。彼が3年生の時、父親が交通事故でひどい怪我をし、おじさんと住むようになりましたが、エレミヤはその時から学校に行っていないで

数日前、おじさんはセブンスデー・アドベンチストの女性と結婚し、今、彼女がエレミヤを

教会に誘っているのです。彼は行きたくありませんでしたが失礼な態度はとりたくないで、「また今度行くよ」と言いました。

次の土曜日の朝、おばさんはまたエレミヤを教会に誘いました。

「教会に行きましょう！」

エレミヤは行きたくありませんでしたが、失礼なことはしたくなかったので、「また今度ね」と言いました。

その次の土曜日の朝、おばさんが3度目にエレミヤを誘った時、エレミヤは自分の意志に反して「行こう！」と言ってしまったのです。

おばさんはとても嬉しそうでした。

驚いたことに、エレミヤ自身も行ってみてとても満足しました。その安息日礼拝はすべて子どもたちが担当していました。緑のズボンをはき、白シャツの上に黄色いスカーフをつけた子どもたちが教会に入場してきました。緑のズボンをはき、白シャツの上に黄色いスカーフをつけた子どもたちが前で歌を歌いました。緑のズボン、白いシャツに黄色いスカーフの子どもたちがお祈りをしました。緑のズボン、白いシャツに黄色いスカーフの子どもたちが礼拝説教の話を担当しました。その日は教会のパスファインダーデーとなっていたので安息日礼拝のプログラムはパスファインダークラブの子どもたちによって担当されていたのです。

パスファインダークラブを初めて知ったエレミヤはクラブに入りたくなりました。白いシャツに緑のズボン、黄色いスカーフの制服が気に入りましたが、特に気に入ったのは安息日礼拝のプログラムでした。彼はその日、イエス様に自分の心をおささげしようと決めました。

次の安息日、おばさんがエレミヤを教会に誘う必要はありませんでした。おばさんが行こうと言う前に彼は行く準備ができていたのです。

「行こう！」と彼はウキウキしながらおばさんに言いました。

すぐに、彼はバプテスマを受けてアドベンチスト教会の一員となりました。

ある日、教会の少年からルサングアドベンチスト学校のことを聞いたエレミヤはそこに入学させてほしいと必死におじさんに頼みました。おじさんは許可してくれました。

現在、12年生（日本では高校3年生）を修了しようとしている彼はこの上もなく幸せです。でも彼以上に喜んでいるのはおばさんかもしれません。「おばはぼくがアドベンチストの教会に属していることを誇りに思っています」とエレミヤは言います。「ぼくが家にいる時はいつも一緒に教会に行きます」。安息日の朝、「教会に行こう！」とおばさんが言うことはめったにありません。彼女が口を開く前に、エレミヤが「行こう！」というからです。

#### 宣教メモ

- 1903年にW.H.アンダーソン、ジェイコブ・デチャ、そして数名のアフリカ人の働き人たちが適当な宣教地を求めて当時南ロデシアだったソルシ本部から北ロデシアへと旅立ちました。ほとんど徒歩で移動し、アンダーソンは赤痢で命を落としそうになりながら、彼らはチーフモンゼの領土、すなわち首都カロモから160キロ北東にあるモンゼ酋長の領土に着いたのです。モンゼ酋長は彼らに2200ヘクタールの土地を与え、そこがルサング宣教地となりました。その土地にルサング中等学校（日本でいう中学校・高校）が建っています。

〈お話のヒント〉

- 地図を見て、ルサング中等学校があるザンビアのモンゼを探してみましょう。
- YouTube でエレミヤを見ることができます。  
[bit.ly/Jer-Z](https://bit.ly/Jer-Z)
- Facebook から写真をダウンロードできます。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)
- 南アフリカ・インド洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしてみましょう。  
[bit.ly/sid-2022](https://bit.ly/sid-2022)
- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された実例です。

「家族や個人を霊に満たされた生涯へと導く」（霊的成長の目標 No. 5）

エレミヤのルサング中等学校での学びは下記項目の実例です。

「自由、全人的健康、イエスによる希望を掲げ、人々の中に神のみかたちが回復されるためにセブンスデー・アドベンチストの機関を強化する」（伝道の目標 No. 4）

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://IWillGo2020.org) をご覧ください。

## 2. お母さんは眠っている

ナミビア



メリッサとダイアナ

ここはナミビアという国です。

夕方になると、マリアは悲しくて泣いている双子の姉妹に、台所の窓を開けて食べ物をテーブルの上に置くようにと言いました。

「お母さんは近くにいるのよ」とマリアは言いました。「お母さんが来て食べられるように毎晩食べ物を用意して台所に置いておきましょうね」

それは悲しい日でした。お母さんが死んだのです。

マリアは家族の友人で、おばさんがジンバブエから到着するまでの間、双子の世話をしにきていたのです。

メリッサとダイアナは野菜シチューととうもろこし粥を盛ったお皿を食卓に置くというアイデアが気に入りました。こうすれば、お母さんが天から自分たちの所に来ることが出来ると思いながら眠れるのです。

でもその夜、2人は食卓に何も置きませんでした。悲しく、疲れ切っていたのでベッドに入り泣きながら寝るのがやっとでした。

次の朝はやく、マリアは双子を起こして言いました。

「お母さんがここに来ていたのよ。お母さんは私に、子どもたちがいい子にしているかと聞いてきたのよ」

双子は嬉しくてにっこりしました。

「本当マリア？」とメリッサ

「ママは私たちと一緒にいるの？」とダイアナがたずねました。

その日、おばさんがジンバブエから到着しました。彼女はマリアが双子にお母さんのために食べ物を置くように言ったことや、お母さんを見たと言ったことを聞き、あっけにとられました。

それからおばさんはメリッサとダイアナを呼んで、死んだら何が起きるかについて真剣な話をしました。

「あなたたちはお母さんを愛していたから、すごく寂しいわよね」とおばさんは言いました。

「お母さんもあなたたちをととても愛していたわ。でもね、夜あなたたちが寝ている間にお母さんはご飯を食べには来ないの。お母さんも眠っていて、イエス様がもう一度おいでになるまで眠り続けているのよ。」

おばさんは聖書を開いて、聖書に「死者はもう何ひとつ知らない」(コヘレト9章5節)し、「主を讃美するのは死者ではない」(詩編115編17節)と書かれていることを少女たちに教えしました。死んでいる人はイエス様が力と栄光の雲のうちにこの世に戻って来られる時まで(マタイ24章30-31節参照)、「眠る」のです。イエス様がおいでになる時、イエス様は眠っている死人を起こし、そして私たちはいつも主と共にいることになる(テサロニケI・4章16-17節参照)とおばさんは言いました。

メリッサとダイアナはお母さんと一緒に日

曜教会に行っていました。でも今まで死人は眠っているなんて聞いたことはなかったのでおばさんの言葉に熱心に耳を傾けました。

「イエス様はあなたたちがどんなに悲しいかご存知なの」とおばさんは言いました。「イエス様も悲しいの。死は悲しいものだわ。でもイエス様は今日も、そして毎日、私たちと共にいてくださると約束してくださるの。イエス様は決して私たちを捨てたり、置き去りにしないと約束してくださってるわ」(ヘブル 13 章 5 節参照)

メリッサとダイアナはその言葉が好きになりました。2人はおばさんを信じました。そしてもう二度と夜テーブルに食べ物を供えることはしないと決めました。

お母さんは夜、ここにやって来ることはないのです。イエス様が起こしてくださるまでお母さんはお墓の中で眠っているのです。

メリッサとダイアナはイエス様がいらっしゃる時のために準備がしたいと思いました。2人はおばさんが行っているセブンスデー・アドベンチスト教会に通い始め、イエス様に自分たちの心をおさげしました。現在、メリッサはアドベンチストの牧師の妻であり、ダイアナは教会執事として奉仕しています。2人はイエス様が栄光の雲のうちに現れ、空中でイエス様とお母さんに会えるその素晴らしい日を心待ちにしています。

〈お話のヒント〉

- 地図でナミビアとジンバブエを見つけましょう。
- 本文中の「マリア」は実名ではなく、仮名です。
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)
- 南アフリカ・インド洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sid-2022](https://bit.ly/sid-2022)
- この話の中にはセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化されています。

「家族や個人を霊に満たされた生涯へと導く」  
(霊的成長の目標 No. 5)

「青年や若者たちが神を第一とし、聖書的世界観を例証できるよう助ける」(霊的成長の目標 No. 7)

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://IWillGo2020.org) をご覧ください。

#### 豆知識

- ナミブ砂漠はナミビアの海岸線沿いに広がっており、地球で最も古い砂漠とされています。又、その砂丘は世界で最も高く、最高地点で約 388 メートルもあります。



## 3. 締め出し

## モザンビーク



オティリア

オティリアは父親をととても愛しています。

でも、父親が彼女を愛しているかどうかは疑問です。

ある安息日、彼女が教会から帰ってくると、彼女の服が全部家の前に投げ捨てられていました。オティリアが玄関から入ろうとすると鍵がかかっていた。父親がまた彼女を締め出したのです。

この問題はオティリアが他の町に住む姉と一緒に暮らしていたときに始まりました。その町の学校でオティリアはセブンスデー・アドベンチストの子どもたちと仲良くなり、安息日のことを知ったのです。オティリアは彼らとともにアドベンチスト教会に行き始めました。しばらくしてから、彼女はイエス様に心をささげ、バプテスマを受ける決心をしました。

お父さんは彼女がアドベンチスト教会に加わったことを知ると怒りました。お父さんは他の教会の牧師だったのです。

「私はおまえがアドベンチストになること

を禁ずる」と父親は電話越しに叫びました。

彼はオティリアの姉に、安息日にオティリアが教会に行くのをやめさせるように言いました。

オティリアの姉は父親と問題を起こしたくなかったので、オティリアを父親と一緒に住ませるために家に送り返しました。

オティリアが家に戻った最初の安息日、父親は家の鍵を閉めて彼女が家から出られないようにしました。

「教会に行ってはいけない」と彼は言いました。

オティリアは一日中家の中に閉じ込められていました。

でも次の安息日、お父さんは仕事があり、オティリアは教会へ行くために出かけました。家に戻ってみると、家には鍵がかかり、締め出されていました。父親は彼女に昼食も夕食も食べさせませんでした。その夜、お父さんが眠ってしまってから、妹がドアを開けて中に入れてくれました。

お父さんはオティリアを教会に行かせまいと思いつく限りのことをしました。彼はオティリアを家から投げ出すとおどしました。彼は彼女の服を庭に投げ出し、扉の鍵を閉めました。彼は彼女を叩いて叱りました。

オティリアはお父さんがとても怒っていることを悲しく思いましたが、決して口答えをしませんでした。イエス様も敵が怒っていた時、口答えをしなかったことを覚えていたのです。イエス様は自分を殺す人々のために折られたことを彼女は覚えていました。イエス様は十字架の上でこう折られたのです、

「父よ、彼らをお赦してください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ 23 章 34 節)

それで、お父さんが怒っている時、オティリアは心の中で、「神様、お父さんをゆるしてください。お父さんは何をしているのか知らないのですから」と祈りました。

ある日、お父さんは怒るのをやめました。ドアの鍵をかけなくなりました。彼女の服を投げ出さなくなりました。彼女をたたくのをやめました。でも、依然としてあまり嬉しそうではありません。

オティリアは父親のために祈っています。

彼女は将来、親との間に問題を抱える子どもたちを助ける人になりたいと思っています。彼女は全ての青少年少女たちに自分の最も好きな聖句であるイエス様の言葉を知ってもらいたいと願っています。

「あなたがたには、この世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。」(ヨハネ 16 章 33 節)

オティリアは希望にあふれています。彼女はイエス様がすでにこの世の悩みに打ち勝っておられ、近い将来、イエス様が自分を天に連れて行くために迎えに来てくださることを知っているのが幸せなのです。彼女はイエス様が決して彼女を家から締め出したり、服を庭に投げ出したりなさらないことを知っています。彼女はイエス様をととても愛しており、イエス様も自分を愛しておられることを確信しています。

3年前、オティリアの住む町、ナンプラに孤児院を提供するための 13 回献金をおさげくださり感謝致します。この孤児院は両親が HIV/エイズで亡くなった子どもたちのためのものです。

〈お話のヒント〉

- 地図でナンプラ、モザンビークを見つけましょう。
- YouTube でオティリアを見ることができます。  
[bit.ly/Otilia-1](https://bit.ly/Otilia-1)
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)

• 南アフリカ・インド洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sid-2022](https://bit.ly/sid-2022)

• この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された実例です。

「家族や個人を霊に満たされた生涯へと導く」  
（「霊的成長の目標」No.5）

新しい孤児院は次の項目の実例です。

「自由、全人的健康、そしてイエスによる希望を掲げ、人々のうちに神のみかたちが回復されるためにセブンスデー・アドベンチストの機関を強化する」（「伝道の目標」No.4）  
詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://IWillGo2020.org) をご覧ください。

### 宣教メモ

- アドベンチストのメッセージがモザンビークにもたらされたのは、マラウイのマムロミッションスクールから2人の学生がポルトガル領東アフリカ（現在のモザンビーク）にある家に戻った 1931 年のことでした。2人は伝道を始め、すぐに 555 人もの人々を聖書クラスで教えるようになりました。O.U.ギディングスとマックス・ウェブスターは現地調査のためモザンビークを訪れ、1933年にウェブスターが伝道本部設立のためモザンビークのザンベシ地区に送られました。1935年、知事の許可の下、彼はマングルニ（光という意味）という名前の伝道本部を設立しました。

## 4. 忠実な祖父母

## 南アフリカ



ギデオン・レイネク

これは南アフリカに住むある家族が、セブンスデー・アドベンチスト教会のことを知らずして安息日を守るようになったお話です。

1920年代、ここは中央南アフリカにある小さな農場です。とうもろこし畑で働くにはもう暗くなりすぎた夕暮れ時、レイネク一家は食事のため大きなキッチンテーブルの周りに集まりました。

お父さん、お母さん、7人の息子たち、4人の娘たちは毎晩家の畑でできたものを食べます。食事は主食のとうもろこし粥にじゃがいも、かぼちゃと肉です。食事の後、子どもたちはテーブルのお皿を片付け、お父さんが家庭礼拝のためにオランダ語の聖書を広げました。

年上の子どもたちは木の椅子に座って熱心に聞き入り、幼い子どもたちは両親のひざによじ登りました。お父さんが聖書を読み終わったら、讃美歌を歌って、お父さんがお祈りするのを子どもたちは知っています。

この特別な夕べ、お父さんは聖書を開いて読みました。「安息日を心に留め、これを聖別せよ。

六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない」(出エジプト記 20章 8～10節)。

お父さんはみんなが眠らないように時々子どもたちに質問するのですが、今回はお父さん自身の中に1つの問いが浮かんできました。

「聞きなさい」とお父さんは考え込みながら言いました。「ここに6日間働いて7日目に休みなさいと書いてある。」

7日目に休むというのは彼にとって新しい考えでした。彼と家族はこれまでずっと週の第1日目、日曜日を安息日として守ってきたのです。でも聖書は違うことを言っているのです。

お父さんは聖書に書き込みをしました。「六日の間働いて」という言葉の横に、お父さんは「耕す時」と書きました。「七日目に休みなさい」という言葉の横に「休む時」と書きました。ことは明らかでした。これからお父さんと家族は日曜日から金曜日まで働き、第7日安息日に休むのです。

その週から家族は聖書で読んだとおりに安息日を守り始めました。毎週安息日、彼らは耕すことをやめ、その他の普段の仕事もしませんでした。

近所の農家の人たちもこの変化に気づき、間もなく他の3つの家族も第7日安息日を守るようになりました。

それから時が経ち、ある時アドベンチストの文書伝道者が訪ねてきて、お父さんに”God’s Covenant With Man”(神と人との契約)という本を売りました。その本を読んで、お父さんとお母さんは初めてセブンスデー・アドベンチスト教会のことを知りました。彼らは他の人々も第7日安息日に礼拝していることを知ったのです。

お父さんとお母さんがセブンスデー・アドベンチスト教会の信者になったかどうかは誰も知りませんが、11人の子どもたちのうち、4人がアドベンチストになりました。彼らの孫の1人であるギデオンは、今期13回献金が送られる南アフリカ・インド洋支部の伝道活動を支える牧師です。

支部の総務の働きをしているギデオンは、100年前、祖父母が聖書を読んでそれに従ったことをとても嬉しく思っています。私たちが聖書を読んで従う時、神様もまた喜んでおられますよ。

〈お話のヒント〉

- 地図で南アフリカを見つけましょう。子どもたちに南アフリカ・インド洋支部の14の国を示しましょう。アンゴラ、ボツワナ、マラウイ、モザンビーク、サントメ・プリンシペ、南アフリカ、ザンビア、ジンバブエ、そして7つのインド洋の島国（コモロ、マダガスカル、モーリシャス、マヨット、レユニオン、ロドリゲス、セーシェルを含む）
- Facebookの写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)
- 南アフリカ・インド洋支部からの情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sid-2022](https://bit.ly/sid-2022)
- このお話ではセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化されています。

「家族や個人を霊に満たされた生涯へと導く」  
(霊的成長の目標 No. 5)

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://IWillGo2020.org) をご覧ください。

### 豆知識

- トゥゲラ滝はベネズエラのエンジェル滝に続いて世界で2番目に高い滝で、南アフリカのクワズール・ナタール州にあるロイヤルナタール国立公園内に位置しています。トゥゲラ滝は5つの滝から構成されており、全体で983メートルもの高さがあります。



## 5. ゴミのお返しにパンをどうぞ アンゴラ



メリー

アドナは機嫌の悪い女性でした。争い好きで、特にアンゴラのルアングダに住むご近所の人達といつも言い争うのでした。

でも、近所の中にただ1人、彼女と言い争いをしない人がいました。メリーです。アドナはメリーを見るたびに大きな声でわめきました。メリーを見るたびにけんかを仕掛けようと思いました。でも、メリーはただにっこり笑って、嬉しそうに挨拶しました。

「会えて嬉しいわ！」とメリーは言いました。

「あなたに神様の祝福がありますように！」

なぜメリーがいつも嬉しそうにしているのか、アドナには理解できませんでした。彼女はなぜメリーが決してわめいたり争ったりしないのか理解できませんでした。アドナはさらに大声でわめき、なんとかしてけんかをふっかけようと思いました。でもメリーは怒るどころか、前よりももっと微笑んで前よりももっと嬉しそうに彼女に接してくるかのようでした。

「あなたに会えてとても嬉しいわ！」とメリーは言いました。

「神様がとても特別な方法であなたを祝福してくださいますように！」

そこでアドナは1つのことを思いつきました。彼女は道路から自分の庭に飛んできたゴミをしょっちゅう拾わなければなりませんでした。そこで、次に庭を掃除した時、彼女はそのゴミ袋をメリーの家の門のところに置いたのです。メリーは文句を言いませんでした。一言も言わずに、メリーはそのゴミ袋を道の向こうの方にある大きなゴミコンテナまで運んでいきました。それから家に戻り台所から何かをとると、アドナの家を持っていったのです。

アドナがドアを開けるとメリーは言いました。

「今日、会えてうれしいわ！ このパンをどうぞ」

彼女はアドナにビニール袋に包んだ手作りのパンを手渡しました。

アドナは驚きました。でも態度を変えようとはしませんでした。次にまた庭を片付けた時、彼女はまたメリーの門のところにゴミ袋を置きました。メリーは再びそれを大きなゴミコンテナまで運んでいきました。そしてアドナのところへ行き、「あなたに会えて嬉しいわ！ このパンをどうぞ」とパンを手渡しました。

同じことが何度も繰り返されました。アドナはメリーの門のところにゴミ袋を置き、メリーは彼女にパンを持っていくのでした。

ある安息日の朝、メリーが家から出てくると、アドナがちょうど彼女の門の前にゴミ袋を置こうとしているところでした。メリーは教会に行くためにきれいな服を着ていました。彼女は怒ったでしょうか？

メリーはひと目、そのゴミ袋を見ると、きれいな安息日用の服を着ていたにも関わらず、それを持って大きなゴミコンテナまで運んでいきました。それから彼女はアドナの家に行きました。

「今日会えて嬉しいわ！」と彼女は言い、「こ

のパンをどうぞ」とパンを渡して帰ろうとすると、アドナに呼び止められました。アドナの目には涙が浮かんでいました。「パンを本当にありがとうございます。でもどうぞ待ってください。私たちもあなたと教会に行きたいのです」

メリーは驚きました。

「私たち？」とメリーは聞き返しました。「私たちってどういう意味？」

「私の家族と私は、あなたのイエス様を愛することを学びたいのです」とアドナが言いました。

こうしてアドナと彼女の夫、そして4人の子どもたちはセブンスデー・アドベンチストになりました。どうして？ メリーは彼らに聖書の聖句や神様のことを一度も語ったことはありませんでした。彼女はただ、自分の行いを通して神様の愛をあらわしたのです。彼女は敵を愛することによってイエス様に従いました。イエス様はおっしゃいました、「しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである」(マタイによる福音書 5章 44、45節)。

今日、アドナはもはや気難しくはありません。彼女はもはやけんか好きではありません。彼女は近所の人たちになっこり笑って嬉しそうに言います、「会えて嬉しいわ！ あなたに神様の祝福がありますように！」

今期の 13 回献金の一部は子どもたちがイエス様のことを学べるように、アンゴラのルアンダにアドベンチストの学校を開校するために用いられます。

〈お話のヒント〉

- 地図でアンゴラを見つけましょう。
- メリーがアドナを愛したように、どうしたら敵を愛することができるか子どもたちに質問しましょう。(例・・・いじわるなクラスメートに勉強を教えてあげる。兄弟げんかのあ

と、兄弟にお菓子を分けてあげる。学校のいじめっ子のために祈る。)

- 聖書の中のイエス様の次の言葉も子どもたちに伝えて、それらの聖句や話に出てきた聖句をどのようにして生活の中で実践出来るか考えましょう。「しかし、わたしはあなたがたに言う。悪人に手向かうな。もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい」(マタイ 5章 39節)。「あなたがたは、地の塩である。もし塩のききめがなくなったら、何によってその味が取りもどされようか。もはや、なんの役にも立たず、ただ外に捨てられて、人々にふみつけられるだけである」(マタイ 5章 13節)。
- 「アドナ」は実名ではなく仮名です。
- Facebook の写真をダウンロードしましょう。[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)
- 南アフリカ・インド洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。[bit.ly/sid-2022](https://bit.ly/sid-2022)

- この話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画の次の項目が具現化された実例です。

「キリストの証人となり、弟子をつくる喜びのうちに、世界伝道とそのために犠牲を払う生き方という観念を牧師のみならず若いも若きも含む全教会員のうちに復興させる」(伝道の目標 No.1)

「福音にまだ触れていない人々、及び福音をまだ受け入れていない人々の間や大都市でのアドベンチストアウトリーチの強化と多様化」(伝道の目標 No.2)

メリーのふるさと、ルアンダに学校を開設する 13 回安息日プロジェクトは下記項目の実例です。

「セブンスデー・アドベンチストの機関が自由、全人的健康、イエスによる信仰を掲げていけるよう強化する」(伝道の目標 No.4)

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](https://IWillGo2020.org) をご覧ください。

## 6. イエス様を見る

アンゴラ



リカルド・フェレイラ

リカルドは10歳の時、アンゴラでフェンスを飛び越える際、事故にあいました。フェンスの向こう側にある細い針金に気づかず、真っ逆さまに地面に落ちてしまったのです。

事故の後、彼の視力は衰えていきました。学校では黒板の字が見にくく、最前列に座らせてもらいましたが、しばらくするとそこから見えなくなってしまいました。とうとう、先生は目の見えない子どもには教えられないと言って彼を家に送り返しました。

リカルドの両親は彼を連れて医者めぐりをしましたが、誰も彼を助けることはできませんでした。医者たちはリカルドの視力はもう二度と戻らないと言いました。

リカルドはとても悲しみました。もうみんなとサッカーしたり、自転車に乗ったり、かくれんぼができないのです。彼が家から外に出ると、昔の遊び仲間たちがからかう声が聞こえます。「目の見えない男の子！ 目の見えない男の子！」

みんなはおもしろいジョークを言っているつもりでした。自分たちの言葉がリカルドの心を傷つけているとは知らずに。リカルドは人生に希望がないように感じました。

ある日、年上のいところがリカルドをパスファインダーの遠足に誘いました。いところはパスファインダークラブのリーダーでした。リカルドは行きたくありませんでしたが、いところが熱心に言い続けるのでとうとう行くことにしました。リカルドはパスファインダーのいろいろな活動に参加できたことに驚きました。そればかりか、いところはリカルドに手伝いを頼んだのです。リカルドは自分が必要とされていると感じました。いい気持ちでした。

それから間もなく、リカルドはある説教を聞いてイエス様に心をおささげしたくなりました。しかし、ここで問題が起きました。バプテスマクラスで先生がそこに参加しているリカルドとみんなに十戒を暗唱するようと言ったのです。でもリカルドは聖書も先生から配られた十戒のプリントも読むことができません。バプテスマを受けることはできないんだ、と彼は悲しく考えました。家で、お母さんはリカルドを励まして言いました、

「神様の御心ならばバプテスマを受けられるわよ。」

その週、リカルドの姉は弟に十戒を読んで聞かせました。姉は彼がそれを覚えられるように繰り返しくりかえし読み聞かせました。

金曜日に、バプテスマ志願者はみな教会に集

まりました。

「誰が一番に十戒を暗唱しますか？」との長老の質問に誰も答えないので、リカルドが手を上げました。彼は正しい順番は覚えていませんでしたが、10の戒めは全部きっちり言うことができました。長老は驚いて、リカルドに握手の手をさしのべました。それから、みんなの方を向いて「リカルドみたいに暗唱する人はいますか？」とたずねました。

その翌日の安息日にはリカルドを含む希望者全員がバプテスマを受けました。

それからほどなくして、リカルドはある週の安息日学校の伝道地便りの時間を担当しないかと頼まれました。何人かの教会員がそのことを聞いた時、彼らは安息日学校リーダーにそれは考え直したほうが良いと言いました。

「リカルドは読めないで、伝道地便りを担当するのは無理だ。」

安息日学校のリーダーはリカルドの肩に優しくさわりました。

「君は彼らの言ってることが聞こえる？」と彼がたずねると、リカルドはうなずきました。

「君に何が出来るかをみんなに示すんだ。次の安息日に伝道地便りのお話出来るように準備しなさい。」

リカルドの姉が伝道季刊誌から伝道地便りのお話を彼に読み聞かせると、彼はそれを簡単に暗記しました。安息日にリカルドは最初から最後までお話をすることができました。彼が話し終えると、驚きに満ちた大きなアーメンの声が教会中を満たしました。

現在、リカルドは25歳の大学生で牧師になる準備をしています。彼はこの2年間パスファインダーの指導に携わり、アンゴラ周辺の教会で定期的にお説教を担当しています。彼の説教を聞いて、大勢の人々がバプテスマを受けました。

リカルドはもう悲しくありません。目が見えなくても神様から素晴らしい記憶力という賜物を頂いているのです。二度と見えるようには

ならないと言った医者たちは間違っていた、と彼はいつも言います。なぜなら黙示録1章7節に次のように書かれているからです、

「見よ、その方が雲に乗ってこられる。すべての人の目が彼を仰ぎ見る」

これはイエス様が再びおいでになる時、すべての目が彼（イエス様）を見るという約束です。そしてそこにはリカルドも含まれています。

「いつの日か、私は愛するイエス様のお顔を見るでしょう」とリカルドは言っています。

今期の13回献金はリカルドのふるさと、アンゴラのルアンダにアドベンチストの学校を開設するために用いられます。南アフリカ・インド洋支部のための惜しみない献金を感謝致します。

〈お話のヒント〉

- 地図でアンゴラを見つけましょう。
- リカルドの遊び仲間たちの態度について子どもたちと話し合い、視覚しょうがいのある子どもに対してどのように接するべきなのかたずねましょう。
- イエス様なら目の悪い子どもにどのように接するだろうかとたずねましょう。子どもたちがお互いの違いに関わらず、誰に対しても愛と忍耐を示すように奨励しましょう。
- Facebookの写真をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/fb-mq](https://bit.ly/fb-mq)
- 南アフリカ・インド洋支部の情報「Fast Facts and Mission Posts」をダウンロードしましょう。  
[bit.ly/sid-2022](https://bit.ly/sid-2022)
- このお話はセブンスデー・アドベンチスト教会の「I Will Go」戦略計画における以下の3項目の実例です。

「キリストの証人となり、弟子をつくる喜びのうちに、世界伝道とそのために犠牲を払う生き方という観念を牧師のみならず、若いも若きも含む全教会員のうちに復興させる」(伝道の目標 No.1)、

「福音にまだ触れていない人々及び福音をま

だ受け入れていない人々の間や大都市におけるアドベンチストアウトリーチの強化と多様化」(伝道の目標 No.2)

「家族や個人を霊に満たされた生涯へと導く」  
(霊的成長の目標 No.5)

ルアンダに学校を開設するプロジェクトは次の項目の実例です。

「セブンスデー・アドベンチスト機関が自由、全人的健康、イエスによる信仰を掲げていくことができるように強化する」(伝道の目標 No.4)

詳細はウェブサイト [IWillGo2020.org](http://IWillGo2020.org) をご覧ください。

#### 豆知識

- サバンナにはバッファロー、ぞう、きりん、かば、ハイエナ、ひょう、ライオン、さる、ヌーやアンテロープ、しまうまなどの動物がいます。また、重大な病気を運ぶ蚊とツェツェバエなどの昆虫もいます。



〈13回安息日の前に〉

- 各家庭にお知らせを送り、保護者のプログラムへの周知をはかり、6/25の13回献金を準備するように奨励しましょう。伝道献金は神様の言葉を世界に広める贈り物であり、13回献金の1/4は南アフリカ・インド洋支部の3ヶ国での6つのプロジェクトのために直接送られることをお知らせしましょう。それらの伝道計画は大人の『安息日学校聖書研究ガイド』の裏表紙に記載されています。
- ナレーターは話を暗記する必要はありませんが、読まないで話せるくらいに内容を把握しておいてください。子どもたちがこの話を演じるのもよいでしょう。
- 話の前後いずれかに、地図を用いて13回献金が送られる南アフリカ・インド洋支部の3つの国(アンゴラ、マラウイ、マヨット)を見せましょう。13回献金の伝道計画を説明しましょう。

〈今後の13回献金の伝道計画〉

来期の13回献金は南アメリカ支部の次の地域に教会を建てるために用いられます。

- ボリビアのコチャバンバ
- ボリビアのエル・アルト
- ボリビアのラ・パス
- ボリビアのトリニダ
- ブラジルのサントス
- ブラジルのマウア
- ブラジルのプロドウスキ
- ブラジルのリベイラウン・プレト